



「KOMABA DAY」は月に一度実施している日で、世界で起こっている様々な問題に子どもたちが触れる機会を作っています。また、同日は募金箱も設置します。集まった募金は災害などの緊急支援やKOMABAの開校以来、その活動を応援し続けているトータルペインター・ミヤザキ ケンスケさんのプロジェクトOVET THE WALLに役立てられます。なお楽しみながらの活動を目指しているため、「KOMABA DAY」では講師は私服で授業をし、生徒は配慮しつつ授業中の飲食を可としています。

インフル、昨年の1000分の1

コロナ対策奏功か一厚労省「手洗い徹底続けて」

【2020年9月22日】



インフルエンザの患者数が例年に比べ、異例の低水準になっています。厚生労働省によると、今月13日までの2週間に報告例はわずか7人で、昨シーズンの1000分の1未満、例年の1000分の1ほどです。これは、手洗いやマスク着用の徹底など、新型コロナウイルスの感染防止策が背景にあるとみられています。

要因について、厚労省幹部は「衛生意識の高まりが大きい」と分析しました。昨季（昨年9月～今年4月）の累計患者数は推計で前季比4割減の約729万人でしたが、これは、今年1月に国内で新型コロナ患者が初めて確認され、感染防止策が広がったことによるとみられています。

ただ、インフルエンザは通常、11～12月に流行入りし、1～2月にピークを迎えるため、現時点での流行予測は困難です。同幹部は「患者数が少ないが、油断は絶対に禁物。特に今季は新型コロナとの同時流行が懸念されており、例年以上に手洗いなどを徹底してほしい」と話しています。

インフルエンザの報告患者数(単位人、厚生労働省まとめ)

年	9月第1週	第2週	合計	翌年にかけてのシーズン累計(推計)
2020	3	4	7	?
19	3813	5738	9551	729万
18	338	655	993	1210万
17	899	1081	1980	2257万
16	260	458	718	1701万
15	309	347	656	1613万

インフルエンザの報告患者数



コロナの影響で予防が当たり前になってきている

今やインフルエンザと聞くと、風物詩のようなものといった印象を受けます。しかしその起源は古く、紀元前412年のヒポクラテスとリヴィによるものとされています。11世紀には明らかにインフルエンザの流行を推測させる記録が残っており、16世紀にはすでにインフルエンザという名で呼ばれていたようです。

また、第一次世界大戦の最中、3波にわたり全世界を襲い多数の死者を出して戦争の終結を早めたといわれています。この間、世界の人口の約50%が感染し、25%が発症したと見積もられています。死亡者は2,000万人以上にのぼり、疫病史上有数の大被害となりました。

そんな凄まじい影響力を持っていたインフルエンザですが、医療が発達し今や私たちの日常の一部になっています。現在猛威を振っている新型コロナウイルスも撲滅するというよりも、これからどう付き合っていくのかと考えていくことも必要かもしれないですね。

(北山)